ほっとほっとタイムズ－第５号－

2022.7.19

井荻小学校　校内委員会

いよいよ１学期も終わりですね。皆さん、夏休みの計画は立ちましたか？子どもたちは「自由だあ」と大喜びしていますが、実は「自由」というのは、本当はとても大変なこと。約40日という長いお休み、どう過ごさせるか、親としては悩むところですね。

７月の上旬、桃井第三小学校、荻窪中学校、井荻小学校の３校の先生方が集まってお話をする機会がありました。そこで、自分たちが子どものころと今の子どもたちと比べて感じることをいくつか出し合いました。学校が違っても、年齢が違っても共通していたことがいくつかあって、なるほどなあと感じました。

一つは、何より子どもも大人も忙しくなったということです。共働きの方が増え、大人が忙しくなったこともあるのですが、塾に通う子も増え、子ども達も自由に過ごす時間が無くなっている。それに輪をかけて、携帯やパソコンなどＩＣ機器が発達し、必要でない情報も含め（いやこのほうが多いかもしれない）、多くの情報に始終振り回されている気がするというのです（逆に大切な情報が共有されていない現状も）。

二つ目は、先のことにも関係するかもしれませんが、寂しそうな子が多いという声です。小学校でも、先生に声をかけてもらいたい子、かかわってもらいたい子、甘えたい子が多いのはよく聞く話ですが、中学でも友達同士、やけにべたべたとくっつきあっているなど、スキンシップを楽しんでいるのを見かけるという声も出ていました。家族でのんびり過ごせる時間が少なくなっているのでしょうね。大人も子どももゆっくりすごせる時間が増えることを願わずにはいられません。

三つ目として、遊びが変わったという声が出ていました。このあたりでも、何十年か前までは、放課後は友達同士誘い合ってたくさん外遊びを楽しんでいたそうです。一番若いグループの先生方でさえ、やっとゲーム機が出回ってきたころで、ゲームをするにもすぐそばにいる友達と家の中や公園で遊んでいたということですが、今は、顔も見ないでそれぞれ離れた場所のままで、ゲームで遊んでいる実態があります。そういえば、何かの本に、子どもの遊び場として、昔は「公」の空間（住宅地の中の道やあきち、公園、緑地や山、川といった自然）で遊んでいたが、だんだん遊び場がなくなり、近くの道路で遊んでいた。けれども、最近ではそうした路地が少なくなっているうえに交通量も増え、騒音などの苦情もあり、道路ですら遊べなくなっているのが実態だと書いてありました。

こう考えると、子どもたちの生活は、自分たちの経験した世界とはずいぶん違ってきているようです。そのことが今後、どのように影響してくるのでしょうか。気になるところです。

遊びについて面白い資料がありましたので、紹介します。

・外遊びは、多くの他者と集団で遊ぶ中で、主体的な遊びを通じて自分たちの居場所を獲得するとともに社会の中での育ちを経験することで、「幸福感」や「自己肯定感」、「自己有用感」などが育まれる効果がある。

・「想像力」や「課題解決力」、「生物に関する知識」、「水に関する知識」は公園よりも水辺のほうが育成されやすい。

・「身体性」「感受性」、「挑戦性」、「主体性・積極性」、「安全性」、「自立性」、「忍耐性」、「免疫性」、「社会性・協調性」、「物の知識」については、水辺と公園のどちらでも育成される。

（資料：「水辺のプレイ古インフラ」子どもの水辺研究会）

いろいろ書いてきましたが、子どもにとって外遊びは多くの力をはぐくむようです。

長い夏休み、少しでもこうした経験ができるとよいですね。